

金沢学院大学・金沢学院短期大学

二〇二四（令和六）年度 入学者選抜試験問題

学校推薦型選抜〈一日目〉

二〇二三年十一月十八日（土）実施

国語（基礎学力）

一 注意事項

問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。

解答用紙の解答科目欄に受験科目を記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから10ページまであります。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用するのは法律で禁じられています。

二 解答上の注意

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、「解答番号は 10 」と表示のある問いに対して

④と解答する場合は、下記の例のように解答番号10の解答欄の④にマークしてください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

問1 次の(1)～(5)の傍線部の漢字表記として最も適当なものを、①～⑤の中から一つずつ選べ。解答番号は

1

 ～

5

。

(1) 二次試験はコウトウ試問で行われる。

- ① 喉頭
- ② 口答
- ③ 高等
- ④ 口頭
- ⑤ 高騰

(2) コスモスの花をカンショウする。

- ① 鑑賞
- ② 感賞
- ③ 干賞
- ④ 観賞
- ⑤ 勸賞

(3) 国会でキョウコウ採決された法案。

- ① 強行
- ② 凶行
- ③ 強硬
- ④ 強攻
- ⑤ 凶攻

(4) 何が原因か、まったくケントウがつかない。

- ① 健闘
- ② 検討
- ③ 見当
- ④ 拳闘
- ⑤ 賢答

(5) 四年ぶりに境内にロテンが並んだ。

- ① 路点
- ② 露天
- ③ 路店
- ④ 路天
- ⑤ 露店

問2 次の(6)～(10)のカタカナ語の意味として最も適当なものを、後の語群①～⑥の中から一つずつ選べ。解答番号は

6

 ～

10

。

- (6) コア
- (7) シラバス
- (8) ピア
- (9) プロセス
- (10) メンター

語群

- ① 専門家
- ② 淡水魚
- ③ 授業概要
- ④ 助言者
- ⑤ 精神
- ⑥ 切符
- ⑦ 中核
- ⑧ 過程
- ⑨ 仲間
- ⑩ 周辺

問3 次の(11)～(20)の意味の慣用句を後の語群①～⑩の中から一つずつ選べ。解答番号は

11

～

20

- (11) 力にものを言わせて無理を通すことができる。
(12) 面目が保たれる。
(13) 多方面に知人がいる。
(14) 恥ずかしくて赤面する。
(15) 世間に名前を知ってもらおうとする。
(16) 忘れられないように会合などに出席する。
(17) 名誉を傷つける。
(18) 頼まれて人に会う。
(19) 対戦相手になる。
(20) 気持ちが表情から読み取れる。

語群

- ① 顔から火が出る
② 顔をつぶす
③ 顔に書いてある
④ 顔をつなぐ
⑤ 顔が利く
⑥ 顔を貸す
⑦ 顔が立つ
⑧ 顔を売る
⑨ 顔が広い
⑩ 顔を合わせる

問4 次の(21)～(25)の空欄に入れるのに最も適当な語を、後の語群①～⑩の中から一つずつ選び、マークせよ。ただし、同じ語を二度以上使ってはならない。解答番号は ～ 。

(21) 犬猿の仲の二人は、 誕生日が同じであった。

(22) 彼の言うことは 嘘ではない。

(23) 、勉強の目的は人生を豊かにすることだ。

(24) 大統領の来日に備え、 警護体制を整える。

(25) どんな小さな異常も 観察して事故を未然に防げ。

語群

① すんでのところで

② おりいって

③ くしくも

④ みだりに

⑤ つまるところ

⑥ つぶさに

⑦ あながち

⑧ おしむらくは

⑨ ぬかりなく

⑩ ゆくゆくは

問5 次の(26)～(30)の四字熟語について、誤りがあれば誤っている漢字の番号①～④を、例のようにマークせよ。誤りがなければ⑤をマークせよ。解答番号は ～ 。

(例) ① 四面 ② 楚 ③ 家 ④ ↓ 正しくは「四面楚歌」なので、④をマーク。

(26) ① 意 ② 味 ③ 深 ④ 長

(27) ① 奇 ② 相 ③ 天 ④ 外

(28) ① 才 ② 色 ③ 兼 ④ 美

(29) ① 博 ② 学 ③ 多 ④ 彩

(30) ① 容 ② 姿 ③ 淡 ④ 麗

問 6 次の (31) ～ (35) の例文で使われている敬語について、正しいものには①、誤っているものには②をマークせよ。

解答番号は

31

 ～

35

。

- (31) 私は先生に事情をお話ししました。
- (32) 私は先生に事情をお話しになりました。
- (33) 先生が私に事情をお話ししました。
- (34) 先生が私に事情をお話ししてくださいました。
- (35) 先生が私に事情を話されました。

問7 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

わたしが松永高校に勤めていたころのことである。年の明けた一月一日の午前一時から二時にかけて、しつこい、た、た、た、電話に悩まされたことがある。真夜中、リリーンリリーンとけたたましくベルが鳴るので、あわてて飛び起きて受話器を取り、

「もしもし、もしもし」

と試みるが、向こうはシーンとしている。なんだ、まちがい電話か、こんな時刻に人さわがせな——と受話器を置いて寝床へもぐりこむと、しばらくしてまた電話である。やっぱりまちがいではなかったか、と思って立って試みると、受話器の向こうは、またまたシーンとしている。なんとなくこちらをうかがっているけはいだ。

「もしもし、もしもし、サラガイですが、どなたですか？」

あわててそうよびかけても、返事がない。

「おかしいな、まちがい電話じゃないのかな……」

と、つぶやきながら受話器を置くと、すぐまたベルが鳴る。これはもう明らかにいたずらなのだった。

「だれかな、用事があるなら、黙ってないでちゃんといいなさいよ……」

こっちは腹が立ってきてそういうが、相手は相変わらず黙っている。しかし受話器を通して、なんとなく向こう側のけはいのようなものが伝わってくる。ひとりではなく、ふたり以上いるようだ。悪意のこもったしび笑いのようなものもきこえてくる。

わたしは、俗にいう「頭にきた」状態で受話器をはずしたままにして寝床に入った。

ちくしょう！ 相手はだれだろう。生徒だろうか。なんのためにこんないやがらせをするのか……わたしは、恨みを買っているとは思わぬながら、みんなのいやがる生活指導係もしているし、もしやと疑われるような相手を必死に想像してみた。思いあたる相手はいなかった。それにしても、よりによって一年の最初の日はじまったばかりの深夜、わざわざボクの家の電話番号を調べてダイヤルをまわし、無言の電話をかけてくるのは、どういう料簡なのだろう。

……暗闇の中でいろいろ考えながら荒れた呼吸がおさまるのを待っていると、激しいベルの音に叩き起こされてしまう自分も情けないが、一年の最初の日にそんなことをしなければ気の晴れないやつもいるのかと、その相手のことが、急にあわれに思われてきた。その相手のこれからの一年は、確実に暗く

みじめなものとなるにちがいない。それは火を見るより明らかだ。

わたしは、寝床から出て、はずしたままにしておいた受話器を、もどどおりにかけ直した。すると、やはり相手はそうなるときをじっと待っていたとみえて、やがてまた激しくベルが鳴り響いた。受話器を耳にあけると、やっぱり声がない。沈黙の悪意が伝わってくる。わたしは、とっさにこういった。「きょうは一年で最初の日だ。ポクンとこへそうやって電話をできて気が晴れるんだったら、なんでもかけておいで。かまわないから……」と。

わたしは、実際そう思ったのだ。しかし、それをいった後、もう二度と電話はかかってこなかった。わたしのよびかけ——開き直ったあげくのよびかけ——は、結果としていたずら電話を封ずる手段として働いたのだった。

わたしは、そうか、わたしのその答え方が、相手の意表をついたのか、と思った。これからも、こういう目にあつたらこう応ずればいいのか、と。しかし、同時に、こんどおなじようなことがあっても、もう二度とそのときのようなせつぱまつた気持ちでは応じられないだろう、どこか不純な感じがまじってくるだろう、という思いもした。

ああいうやりとりは、一回きりの生命なのである。一度は有効でも、二度とは効かない。幸いにしてその後、松永高校でも、いまの勤務校福山葦陽高校でも、そういったいたずら電話を受けたことがないから、その有効性を試してみる機会もなかったのであるが。

新幹線の中で似たような経験をしたことがある。それは、いま大阪市立大学の電気科に学んでいる兄の長男みつるが、まだ三歳か四歳くらいのころのことであった。どうしてわたしとみつるがふたりだけ乗っていたのか、いまとなっては覚えていないが、わたしはみつるとならんで四人がけボックスのこちらの座席にすわっていた。東京行きひかり号である。そのわたしたちの席の前の裏側の席に母子がすわっていて、その子どものほうが、どういうわけか、はなはだ下品なことばを口走って母親を困らせている。その男の子は、みつるとおなじか少し歳下のようなようだったが、まわりの人だれかれに面と向かって、きくに耐えないことをいうのである。乗客の中には外国人もいて、日本国民として虚栄心の強いわたしは、はらはらした。その子の口にしてることばの意味が伝わらないことを願うと同時に、母親の抑止力に期待した。ところが、母親は、気弱にたしなめるだけで、いっこうに抑えることができないのであった。

そのうち、その坊やは座席に立ちあがって、こつちを向き、こつちに幼いみつるがいるのを見てとると、わたしたちの前にすわっている人の頭越しに、「うんこたれ」とか「しよんべんたれ」といって、みつるを罵倒してきた。みつるは、幼いながら困り切った表情を浮かべて、わたしのほうに助けを求める風情である。みつるがそのとき「うんこ」をたれていたり、「しよんべん」をたれたりしていたのなら、その汚名を被るにやぶさかではない。しかし、彼は完全に無罪、清廉潔白だったのである。

「ボク、ほらね、きみがきたないことばをつかうから、まわりの人みんなが困ってる。お母さんも困ってる。いい子だから、もういわんのよ」

わたしは、相手がよその子のこともあり、やさしくそうたしなめたが、きかばこそ、きこうでか。少年はますます憎々しげにいいつのるのである。

「ようし、これだけたのんでもきいてくれないんなら、おじさんも怒るからね。もう一回いったら、おじさんはきみのお尻を力いっぱいつねるからね。」

わたしは、そう宣言した。少年は、一瞬おとなのような、なめた薄笑いの表情——このおじさんになにができるものか——というふうな表情を浮かべて、なおも、

「うんこたれ！　しょんべんたれ！」

とののしった。

わたしは、立ちあがってその子のそばへ行くと、渾身の力を指先にこめて、その男の子のお尻をギュウツとつねった。つねりあげた。きつと青あざができたにちがいない。大げさなようだが、そのときのわたしは、全人類を代表してその子をこらしめるのだという勢いだったのである。

見知らぬその幼い少年は、かわいそうに、わたしを信じられないというおどろきと恐怖の目で見、泣きもせず押し黙った。黙ったままだった。

「ありがとうございます」

おかあさんが、心からホツとしたようにいった。そうしてまもなく、少年は眠りに落ちていった。よくあることである。眠たいのに眠れぬとき、少年はいらいらするのだ。わたしは、そのとき初めて、その少年が眠るに眠れず、自分でもわけもわからず、ひどいことばを吐きつづけていたのであることを知った。

列車が東京駅に着いた後も、少年はぐっすり眠りこんでいた。そのおかあさんの荷物は多かった。わたしは、その少年を抱っこしてホームに降り、おんぶして階段を降りた。知らない人が見たら、わたしたちは親子に見えたかもしれない。

その後も列車や映画館など公共の場所で、傍若無人のふるまいをする子どもたちを見かけることがあったが、そのときのような緊密な怒りの感情を叱る行為に結びつけることは、ついにできないのであった。なんどでもくり返してできることと、くり返してはできないことがやはりあるのである。

(皿海達哉『児童文学ぎっくばらん』による。一部改変。)

問い 本文の内容に合致するものに①、合致しないものに②をマークせよ。 解答番号は

36

45

- (36) 著者に無言電話がかかってきたのは、大晦日おおみそかである。
- (37) 著者に無言電話をかけたのは、複数の生徒であった、と断定できる。
- (38) 著者は、真夜中に無言電話をかけてきた相手が、くらくみじめな一年を過ごせばいいと思っている。
- (39) 著者が「なんどでもかけておいで。かまわないから」と言ったのは、無言電話の相手をあわれに思ったからである。
- (40) 著者は今後、無言電話がかかってきたら、今回のように気長に対応しようと思っている。
- (41) 著者が新幹線に乗ったとき、母と口汚く罵り合いをしている少年に出会った。
- (42) 著者の甥おいは、いきなり少年に罵られ、びっくりしておもらしをってしまった。
- (43) 著者は見るに見かねて、少年を注意したが、少年はまったく聞く耳を持たなかった。
- (44) 少年が暴れていたのは、眠かったのに眠れず、いらいらしていたからだろう、と著者は考えている。
- (45) 著者は公共の場所で荒れた子どもをみると、決まってその尻をつねりに行くことにしている。

問8 次の文中の枠内(ア)～(ク)の文の配列順序として最も適当なものを、後の①～⑥の中から一つ選び、記号で答えよ。解答番号は

46。

科学史の意義は科学の歴史の研究それ自体にあると述べるとき、私たちは、こんにち人間にとってあらゆる意味で無視できない、大きな、ときに無気味ですらある存在となっている科学とは一体何であるのか、それを歴史を通じて究明したいという欲求にかられて、そう言うのである。じっさい、政治や経済の歴史が学問的研究の対象とならしたら、科学という文化現象あるいは社会現象の歴史が学問的究明の対象とならない方が、かえっておかしいではないか。

科学史は、他の何かに役立つことによつてでなく、科学の歴史を究明すること自体によつて、まず意義づけられねばならない。科学というのは自然についての客観的、普遍的な認識であつて、その真理は唯一、絶対的であり、究極的には人類に善をもたらすものとして無条件に発展させてゆくべきだ、というのが常識的な科学観であろう。だがはたしてそうなのか。数学や物理学の個々の法則や定理を、それだけとりだしてみれば普遍的で超歴史的ともいえるだろう。しかし全体としての科学は、むしろ、その内的構造においても、人間に対してもつ意味においても、歴史のなかで質的な転換を上げてきたのではないか。「一つの科学」とは幻想であつて、むしろさまざまの「ある時代の科学」、あるいは「ある社会における科学」があっただけではないのか。科学史は、そのような「さまざま」科学の展開と変遷を究明しようとするのである。

最近の大学をめぐる激動をきっかけに、

- (ア) 科学史が学問だという意味は、それが自律性をもつて展開するものであり、それ独自の方法と対象をもつということである。
- (イ) しかし、私たちは、学問は確かに迂遠であるが、その迂遠さは、それが根源的でありうるためには避けることができないものだと考えるのである。
- (ウ) 短絡的な思考や行動以外は意味がないという立場にたつなら、学問はすべてナンセンスであり、科学史もまたナンセンスな学問の一つでしかない。
- (エ) 細分化された科学を全体化してとらえなおし、科学の人間の意味を問いなおそうという気運が、そこから触発されてきた。
- (オ) また、それはある意味で迂遠なものだということである。
- (カ) 科学の歴史の究明にわれわれを駆りたてるモチーフには、たしかに、このような問題意識につながるものが含まれているのである。
- (キ) 科学が大きな目的を失つて、こまかく個別化し、単なる技術的処理のみをこととするにいたっていること、またそのような科学が非人間化し、人間に

敵対的な存在にすらなろうとしていること、がするどく問題提起された。
(ク)しかし同時に、科学史はやはり一つの学問であって、右のような問いかけに直接態で答えるものではないということも、十分わきまえておかねばならない。

(広重徹編『科学史のすすめ』による。一部改変。)

① エクオイアキカウ
④ キアウクエカイオ

② キクウオイアカエ
⑤ エアクキイオカウ

③ エカアオイウキク
⑥ キエカクアオウイ

**2024(令和6)年度 金沢学院大学・金沢学院短期大学
学校推薦型選抜（2023年11月18日実施）
解答例【基礎学力試験】**

国語						
解答番号	正解	配点	解答番号	正解	配点	
問1	1	④	問5	26	⑤	1
	2	④		27	②	1
	3	①		28	④	1
	4	③		29	④	1
	5	⑤		30	③	1
問2	6	⑦	問6	31	①	1
	7	③		32	②	1
	8	⑨		33	②	1
	9	⑧		34	②	1
	10	④		35	①	1
問3	11	⑤	問7	36	②	1
	12	⑦		37	②	1
	13	⑨		38	②	1
	14	①		39	①	1
	15	⑧		40	②	1
	16	④		41	②	1
	17	②		42	②	1
	18	⑥		43	①	1
	19	⑩		44	①	1
	20	③		45	②	1
問4	21	③	問8	46	⑥	5
	22	⑦				
	23	⑤				
	24	⑨				
	25	⑥				

計	50
---	----